まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略（素案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略（素案）に対し、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。
お寄せいただいたご意見（概要）と市の考え方など、意見募集の結果について公表します。

◆意見募集の実施状況

（1）案　件　名　：　まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略（素案）に対する意見の募集
（2）募 集 期 間　：　平成２７年１０月１０日から平成２７年１０月１６日まで
（3）公 表 方 法　：　養父市役所、国家戦略特区・地方創生課及び各地域局での閲覧、養父市ホームページ
（4）提 出 意 見 数　：　２件（2名）
（5）意見提出方法　：

直 接 持 参	1件（1名）
郵　　送	0件
ファクシミリ	0件
電 子 メ ー ル	1件（1名）
計	2件（2名）

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
1	“やぶぐらし”の定義が明確でない。	副題に記述していますとおり、産業としての“農業”だけでなく、養父市の暮らしに深くかかわっている“農”を中心として、豊かな自然環境を活かし、次世代を担う若者、とりわけ若い女性が活躍できる社会を実現し、経済性だけでない心豊かな生活を“やぶぐらし”と定義し、その創造に向け、取り組むのが本戦略であります。
2	“農”と“農業”の違いが明確でない。	これまで養父市で営まれてきた農業は産業として経済生活を支えるだけでなく、地域の伝統文化を育み、農作業や食を通じて健康を守り、田園風景やゆとりの景観で人に癒やしを与えるなど実に多様な機能を有しています。 この多面的な機能を本戦略では“農”と位置付け、市民の日々の暮らしの中にあるものとしています。
3	農業に特化しすぎ 以下、同種のご意見 ・P4（4）　農をクローズアップしすぎ ・P11　農だけを軸にするのはおかしい ・P12　農業に特化しすぎ ・P15　農業だけに特化せず全産業で企業誘致をはかるべき ・P21　農のみしか書いていないのはおかしい	本戦略は、３ページでお示ししているとおり、これまでにない視点から養父市の強みを活かす取組を重点化するために策定するものです。 よって、養父市の強みに特化するのが目的であり、今後の人口減少問題に対応するにあたり、国家戦略特区の指定による全国への様々な効果や６次産業化により雇用確保、地域の生活に根差した産業であることから農業に重点化しているものです。 なお、産業については 15 ページ、基本目標２の“チャレンジできるまちに”にも記載していますが、新たに立地する企業や既存企業の規模拡大及び第2創業の支援など頑張る市内事業者を支援することも盛り込んでいます。

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
4	アンケート結果がほとんど活かされていない。	本戦略は、市民アンケートでいただいた多くの方の意見を参考にしており、各項目で多い意見は次のとおりです。 ○「仕事の機会を充実させるために」では、企業誘致や既存企業の拡大支援、農林業の就業環境など。 ○「結婚していない理由」では、相手がいない、出会いが少ないなど。 ○「子育て環境整備」では、経済的な支援や公園・遊び場の整備など。 ○「養父市が進むべき方向と必要な施策」では、医療・福祉の充実、子どもを安心して産み育てること、豊かな自然を活かすなど。 これらのアンケート意見については本戦略における各基本目標の具体的な施策として反映していると考えています。
5	東京圏への人口集中が悪い事なのかはわからない。	東京圏への人口集中により経済活動などをはじめ地方の活力が低下していると考えています。また、都市部は出生率が低く、日本全体での人口減少問題への対応が求められているものです。
6	ある程度、中心地の集約は当たり前で分散化する発想がおかしい。どこに住もうと自由。分散化の発想はやめるべき。	市民の皆様の暮らしを守るためには、道路や上下水道などの公共施設や日々の買い物をする商業施設などが必要で、これらの安心・安全な生活基盤を維持するために、人口の確保は必要と考えています。 そのために、ふるさとの養父市で暮らしたいが不安がある人や都会を離れ田舎で暮らしたい人たちに対して養父市の魅力を高めＰＲすることで、移住定住に結びつけたいと考えています。 多くの人々が、住むまちや地域を自由に選んでいただく際に、養父市を選んでいただくように市と市民が一丸となって取組みましょう。
7	養父のあとに市をつけよ	本戦略は、市内全域を対象にしているため、原則、養父市と表示させていただきますが、養父市への親しみや愛着を表現するにあたり、副題部分など市を付けないほうが適切と判断した箇所については、「養父」と表記します。

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
8	P4（4） ②産業全体を誘致すべき	本戦略は2060年の人口確保に向けた基盤づくりとして、人材や団体の誘致、育成に着手するものとして位置付けています。 具体例として「農業・ツーリズム・福祉分野等」と記載していますが、地域課題を解決する人材の誘致であれば、産業分野に拘るものではありません。
9	P10 9,876人で公共施設、医療施設、商業施設が維持できないかどうかはわからない。一概に人口が減ったから維持できないとは限らない	ご意見のとおり、本戦略期間の2060年時点で推計人口9,876人の生活がどうなるのかは現時点で明確なものはなく、その後の社会情勢や今後の政策等により市民生活の在り方が大きく変化することも想定されます。 しかし、人や事業者がないと成立しない産業（公共サービス、病院、飲食・小売店などの対個人サービス業など）もあることから、現在の情勢から推察し可能な限り市民が安心・安全に生活できるよう対応することが市の責務と考えているため、今回総合戦略を策定するものです。
１０	P12 基本目標に大企業誘致の件数の具体的数値をいれるべき	大企業であるかどうかは本戦略の主旨になじまないと考えています。市は、個人の起業や企業の立地等、幅広く支援することによって、雇用の確保につなげたいと考えています。なお、企業の支援については基本目標２の具体的施策「◇企業立地の促進と規模拡大・第2創業などがんばる事業者の支援」記載しています。
１１	具体的な施策の内容が抽象的。	具体的な施策は各基本目標の数値目標を達成するための重要な取組を表しています。本戦略に記載の具体的な施策を適切かつ効果的に実行するため、今後、必要な事業を検討していく考えです。
１２	農業でＵターンする人は良い意味で変人ばかりと思う。農業だけでなく他の産業でもＵターンを推進するべき。	市は農業だけのＵターンを推進しようとは考えておりません。古民家の活用をはじめ幅広い分野での起業などＵ・Ｉ・Ｊターンを希望される方の支援を考えています。特に女性のＵ・Ｉ・Ｊターンを促進するための支援を考えています。

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
１３	P13 　市は宅地分譲には関与せず、民間にまかせるべき	市の遊休地処分にあたり、移住・定住を促進することを目的に宅地分譲を条件に民間にまかせるものです。
１４	P13 ふるさと教育の推進 　KPI　目標値 65%を 75%に変更する。	市内の高等学校を対象にアンケートを実施した結果を基にした目標値であり、目標値を高く設定することが望ましいですが、当面の目標値は現状値から 10%増の 65%と設定します。
１５	P15 但馬牛のブランド化や畜産経営の効率化推進 　KPI　目標値 2,500 頭を 3,400 頭に変更する。	高齢化や担い手不足による廃業等で畜産農家の減少が懸念される中、経営の効率化を推進することにより、大規模化を促進する考えでありますが、本戦略期間における和牛飼養頭数については現状を勘案し、目標値 2,500 頭が妥当と考えます。
１６	八鹿では商業施設のニーズが高いのでもっと商業誘致について具体的に書くべき。P15 で曖昧にふれているだけでは説得力がないので具体的に北近周辺開発構想をからめて書くべき。	市は、従来から地域性や既存の計画を考慮しながら、商業を含めた企業の誘致に取り組んできたところであり、引き続き推進する考えであります。
１７	広谷は商業施設のニーズが低いのでこれ以上広谷地区に商業施設を増やさなくてよい。	同上
１８	P16 近代化産業遺産の活用 　KPI　目標値 10,000 人を 100,000 人に変更する。 養父市固有の資源「一円電車」を積極的に活用し、将来的には明延・神子畑間を運行させることも視野にいれ国内、海外からのインバウンドも戦略的に展開する。	養父市固有の資源としてその魅力をＰＲし、また、兵庫県及び朝来市との連携を十分に強化することで、鉱石の道事業だけでなく、山陰海岸ジオパークや竹田城跡などとの相乗的な効果も勘案し、本戦略期間における目標を 100,000 人に変更します。

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
１９	P16 養父型観光資源のマネジメント手法（DMO）の活用 DMO についての説明が必要。 （DMO とは「Destination Marketing／Management Organization」の略で、地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織を指す。）	ご意見のとおり説明書きを加えます。(DMO とは地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織を指す)
２０	P16 伝統産業のイノベーションプロジェクトの推進 KPI　目標値１事業者を３事業者に変更する。 ３事業者（養蚕１、山椒１、松茸１等）	養父市内に広く縁の深い養蚕業は、繊維・紡績業や農業だけでなく、医療、美容、健康、などの多くの分野において高く期待される産業です。 ご意見の山椒についてはブランド化など産地化の推進を本戦略に盛り込んでいます。松茸については、今後の状況を見ながら検討していきたいと考えています。 本戦略については、重点化することを目的に養蚕関連事業に取り組む事業者数　１事業者とします。
２１	P16 国家戦略特区（農業分野以外）の推進 KPI　目標値３件を５件（暮らし１件、しごと２件、子育て・教育１件、健康・長寿１件）に変更する。	規制緩和の数を増やすことが目的でなく、市民に恩恵をもたらすとともに事業者による経済活動を促す効果的な規制緩和を提案することが重要と考えています。提案数が目標値を超えることは差し支えなく多くの規制緩和に挑みたいと考えています。以上により目標値を上げることは本来の目的を失うことも懸念され、現状のままとします。
２２	P16 やぶぐらしツーリズム推進拠点の整備【特区関連】 KPI　目標値５施設（累計）を宿泊者数 2,500 人・売上 5,000 万円に変更する。	民間事業者の取組を想定しており事業規模や計画を設定しにくいため、目標値は５施設としますが、ツーリズム推進の観点から宿泊者数や売上を念頭に置いて支援を行います。
２３	P16 生活と観光をミックスさせた情報・交通アクセス手段の構築 KPI　目標値 1,000 人を 450,000 人に変更する。 新たな交通アクセス手段を具体的に何かを示す。	新たな交通アクセス手段は定額タクシーなどの２次交通を確保する取組を想定しています。ご指摘どおり分かりにくいことから具体的に表現します。新しい取組であることから目標値は 1,000 人とします。

NO.	ご意見（概要）	市の考え方
２４	P16 農業以外の規制緩和をするべき	そのように記載しています。
２５	P17 男女の出会いは民間にまかせるべき	「基本目標③　項目　＜男女の出会いづくり＞」において、若い世代で構成する団体の設立支援や独身男女の出会いやお見合い等のカップリングをコーディネートする人材や団体を育成するとしており、市が男女の出会い事業を直接行うものではありませんので、ご意見のとおりです。
２６	八鹿には愛着はあるが、養父市にはない。	個人のお考えについては、回答を控えます。

※ 語句の訂正等軽微な修正については適宜反映しております。